

清水の子

第8号 令和2年10月23日発行



『未来を創造する
清水の子の育成』
◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp



校長 堀田 稔

あいさつで育つ力

時が経つのは早いもので、今年はコロナウィルスの話題で始まり、学校閉鎖や様々な対策を取りながら「学校での新しい生活様式」に注意しながら過ごしてきました。学習面でも遅れを取り戻すことができたと思っていたら、令和2年も残すところあと2ヶ月少々となりました。今年に入り、保護者地域の方をはじめ、多くの方々に支えられ、ご協力いただきながら、ここまで子どもたちが成長するための、多くの体験や行事を実施できたことに、感謝申し上げます。

1 朝の様子

清水小学校に赴任して、朝、できる限り校門の前に立ち、子ども達を迎える、あいさつしながら、様子を見て、話しかけたり、名前を覚えたりしています。教頭先生も西玄関の外に立ち、担任の先生方は教室で元気なあいさつとともに迎えています。子ども達の中には、恥ずかしかったりしてあいさつの声が小さかったり、言えなかったりする子もいますが、徐々に言えるように声掛けをしていけたらと考えています。ここ半年で清水小の子ども達は、自分からあいさつをしてくる子が確実に増えていることを感じうれしく思っています。

2 あいさつの効能

ご存知の方も多いと思いますが、「あいさつ」を漢字で書くと「挨拶」と書き「挨」には「心を開く」、「拶」には「相手に近づく」という意味があり、相手の存在を認める大切なコミュニケーションツールになっています。さらに、小さな子ども達はハイタッチ（今は自粛して肘タッチ）などをして、笑顔を多く見せてくれます。笑顔のあいさつは体のホルモンなどにも良い影響を与え、心はもちろんのこと体にも良いという話をよく聞きます。

3 あいさつを育てる

では、あいさつができない子をできるようにするにはどうしたら良いか。書かれているものを見てみると、「聞こえない」「言ってない」など否定せずに、「本当はその声の何倍で言いたかったの?」「聞こえているけど、ほんとは元気に言いたいと思っているよね」など認めてからの言葉がけが良いということです。これを何回も繰り返していくうちに自分に自信がつき、しっかりしたあいさつができるようになっていくそうです。

あいさつは、英語で「greeting」出迎える、歓迎するという意味がある通り、仲良くするために行うものです。そして、あいさつによって培われた「コミュニケーションの力」が入試や会社に採用される時の面接等で使う言葉の選択にもつながっているといわれます。さらに、あいさつは、相手も笑顔にして、自分の心も明るくするのは世界中どこでも共通だと思います。ご家庭では日常なにげなく、あいさつをしていることと思いますが、これからも自然に笑顔であいさつができるように、学校、地域、ご家庭との理解を深め、子ども達の「未来を創るための力」を育むために共に進んでいけたらと思っています。